

主題設定の背景

生徒たちの給食の様子を見ていると、周りを気にして食べたり、嫌いな物や食べにくい物だと食べなかったりというような光景が見受けられる。生徒の好きなメニューの一つに肉料理が挙げられるが、その動物がもっている命にまで思いをめぐらし、それに感謝していただくという意識はほとんどない。人は命のある食べ物（肉や魚）をパック詰めにして、食品販売店で購入するようになってから、それらの命を意識して食べることができなくなったとも言われている。

資料とその取り扱い 資料「鯨法会」(金子みすゞ 全集)

本資料は、金子みすゞが、鯨を捕る漁師たちの心の奥底にある罪の意識を共有する心を書いた詩である。鯨の子が泣いている場面を想起させることにより、鯨にも人間と同じように家族や命があることを気付かせることができる資料である。また、それが分かっているながらも鯨を捕らなければ生活していくことができなかつた漁師たちのつらい思いにも気付かせたい。その思いが鯨墓であり、鯨法会として行われていたことを理解させ、漁師の生き方に共感させたい。漁師の生き方から、人間が生きていくためには、他の命をいただかなければならないことについて考えさせ、食べている「命」に感謝したいと思う心情をはぐくみたい。

ねらい

人間は、他の命をいただいて生きているが、それによって自分の命があることの重みに気付かせる。

	活動の内容	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	<p>1 人間はいろいろなものを食べていることを確認する。</p> <p>2 鯨文化について知る。</p>	<p>次の生き物の食べる、食べられるの関係を考えてみましょう。</p> <p>植物プランクトン 動物プランクトン</p> <p>いわし イカ 鯨</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食物連鎖の一部を例に、人間はいろいろな物を食べていることを確認する。 ・時代背景や鯨漁、鯨料理等について説明し、鯨が人々の生活を豊かにしていたことを知らせる。
展開	<p>3 資料を読む。</p> <p>4 鯨漁をしている漁師の気持ちを考える。</p> <p>5 鯨法会に羽織を着て出かけた漁師の気持ちを考える。</p>	<p>資料を読んで、この詩が描く情景を思い浮かべましょう。</p> <p>大変危険を伴うにもかかわらず、どんな気持ちから鯨を捕っていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活のため ・豊かになりたい ・生きていくには、仕方ない ・お金をかせぐため <p>漁師たちはどんな気持ちで、鯨の子の鳴き声を聞いていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つらい ・聞きたくない ・そんなに悲しまないでくれ ・とても悪いことをした…… <p>漁師たちは、鯨法会にどんな気持ちで行っていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鯨に悪かった、感謝しよう ・鯨のためにお参りをしよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を黒板に掲示し、読み聞かせ、情景を思い浮かばせる。 ・「羽織」「法会」の言葉の意味を説明をする。 ・漁師たちが生きていくために、鯨を捕る必要があったことを確認する。 ・鯨の鳴く場面や鐘の音を想像させ、漁師の鯨を思う気持ち、悲しさ、罪悪感に気付かせる。 ・佐賀県でも鯨法会が行われていたことや鯨墓があり、今でも守られていることや羽織を着て改まった服装であることから、鯨の命をとっても大切に思っていることに気付かせる。

展 開	6 いただいた命と自分について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鯨のおかげで生活できる ・ 今年も無事に漁ができた ・ 安らかに眠ってほしい <p>いただいている命と自分の命について、どんなことに気づきましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の中に、他の命が取り込まれている ・ もらった命なので、感謝する ・ 他の命の分まで、大事にする（一生懸命生きることが大切） ・ ありがたい命だから、粗末にはいけない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 命をいただきながらも、感謝の気持ちを大切にしている漁師の生き方に共感させたい。 ・ 食べ物と生き物の写真を用いて、自分も様々な生き物の命をいただいていること、命が他の命に支えられて成り立っていることであることを考えさせる。 ・ 自分の中に、他の命が取り込まれている（一緒に生きていること）ことに気付かせ、命を大切にしたい気持ちを高める。
終 末	7 これまでの自分を振り返る。	<p>授業を受けて感じたことや考えたことをワークシートに書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食べ物の命を考えたことがなかった、命に感謝したい ・ 自分が感謝して、一生懸命生きることが大切 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 再度、「鯨法会」の詩を読み、余韻を残して終わる。
備 考	<p>準備資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鯨に関する資料（鯨漁・親子鯨の回遊シーン・鯨墓・鯨の食文化が分かる資料） ・ 生徒が日常食べているメニュー（肉料理など）と生き物の写真 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 漁師は、漁をして食べるばかりでなく、捕った命に感謝する素晴らしさを持っていることに気付かせ、共感させるようにしたい。 		

* 資料は次ページです。

鯨法会

鯨法会は春のくれ、

海にとびうおとれるころ。

はまのお寺で鳴るかねが、

ゆれて水面をわたるとき、

村のりょうしがはおり着て、

はまのお寺へいそぐとき、

おきでくじらの子がひとり、

その鳴るかねをききながら

死んだ父さま、母さまを、

こいし、こいしとないてます。

海のおもてを、かねの音は、

海のどこまで、ひびくやら。